

心を込めていただきました

佐世保市立日宇中学校三年三組 永田創介

私たちが普段当たり前のように口にしているお米。僕はいつも、そんな当たり前の光景に感謝してお米をいただいている。その感謝の気持ちを表す挨拶を日本語で「いただきます」という。僕がこの「いただきます」を欠かさずに言うようになったのは、小学五年生の頃、初めて米づくりを行ったときからである。

僕は両親の仕事の関係で上五島の小学校に通っていた。人口こそ多くないが、とにかく海がきれいで自然が豊かな島だ。僕の学校では総合的な学習の時間で、地域の郷土菓子である「かんころ餅」づくりを行うことになった。こいた。かんころ餅は、サツマイモを薄く切って天日干しした「かんころ」ともち米を混ぜて作るもちのようなお菓子だ。僕たちは、かんころ餅の原料になるもち米を一から育てることになったのだ。テニスコート一面分は

どの小さな畑を耕し、水をは、て田んぼを整
 備した。もちろん苗も一から作った。よい種
 もみを選別し、種を植えた。種まきをした後
 もリラスのみんなで交代しながら水をや、た。
 泥だらけになりながら田植えをし、一段落つ
 いたもち米づくり。まだ折り返し地点に立っ
 たばかりなのに、みんな心が折れそうになっ
 ていた。それほどに、もち米作りは大変だっ
 たのだ。

かんころ餅への皆の期待が高まる中、事件

は起きた。もち米の稲の半数ほどが、病気に
 よってやられてしまったのだ。せ、かくここ
 まで頑張ってきたのに……。みんなで協力し
 て奮ってきただち米が傷んでしまうのはつら
 かった。また一つ米作りの苦労を知った。
 もち米が傷んでしまっただことによつて収穫
 量は落ちてしま、たが、稲刈りを終え、乾燥
 脱穀、もみすりを終え無事にもち米を収穫す
 ることができた。っ、と終わ、たんだ。僕
 はこれまでになく達成感に包まれた。4年生

が作ったかんころもち米でかんころもちを
作った。そして、いざ実食の瞬間。期待を超
えるおいしさに感動した。それと同時に、一
年間のもち米作りでの苦勞が頭に浮かんだ。
僕がいつも当たり前のように食べてきたごは
んには、たくさんの方の苦勞と作った人の思いが
乗っかっていているんだ。当たり前のごはんのあ
りがたさに、改めて気づいた瞬間だった。
あなたがごはんを食べるとき、いったんき
ます。ごちそうさまを言っているだろう。

か。食事のときの挨拶をなんとなく行ってい
ないだろうか。僕が身を持って体験した、当
たり前のごはんのありがたさ。命をいただく
こと、生産者やごはんを作ってくれた人たち、
あなたにかいごはんを食べられる環境。全てに
感謝して、僕は今日もつぶやく。
心を返めて、いったんきまず！